

第4回 安威川ダム周辺整備検討委員会の議事要旨

日 時 : 平成20年9月22日(月) 15:00 ~ 17:00

場 所 : 大阪市中央区大手前三丁目1番43号 プリムローズ大阪 2階 鳳凰西の間

出席者 : 理学博士 : 井田 和子
元 阪南大学 教授 : 貴多野 乃武次
茨木市観光協会 理事 : 小阪 登志雄
近畿大学理工学部 教授 : 久 隆浩
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授 : 増田 昇(委員長)

事務局 :
大阪府都市整備部河川室
大阪府安威川ダム建設事務所
茨木市建設部

議 事

議 題

(1)安威川ダム周辺整備のあり方について(提言)

(2)その他

< 議事要旨 >

《まとめ》

- ・「グランドデザイン(案)」の「(案)」についても、「提言案」の「案」を外す段階で外す。
- ・今後の課題部分で、継続的な地域マネジメントのための取組として、市民公益活動を担っておられる方々に初期段階から参画頂くなど、委員から指摘を受けた文言については修正を行う。
- ・ハード整備に偏っているように見えるので、物語性などソフト面も見えるようにする。
- ・概ねの内容については了解であるので、細部を事務局で再検討し、各委員に説明した上で、委員長一任で提言をまとめる。

主な意見

- ・今回の承認を経て「提言案」は「提言」になると思うが、「グランドデザイン(案)」は「(案)」がついたままであるのか？
委員からの提言であるので、行政上支障がなければ、外す。
- ・P10の4-2(2)「工事見学会などによる、府民へのダム及び周辺に対する理解の促進」において「周辺に対する理解」というのはどういうことなのかわかりにくいと思う。
周辺とは、周辺整備及び周辺環境という意味なので表現を工夫する。
- ・P11の4-3(1)においては、事業者・地権者等権利を持っている方々について書いてある。(2)、(4)においては市民公益活動を担っておられる方々について書いてある。実際に色々な活動をしたり企画運営をしたりするにあたって、市民公益活動をしておられる方々の知恵や能力は非常に高いので(1)のところでも関わって頂いた方がよいのではないかと。
- ・4-3(1)、(2)が別々に動いてしまうと連携が良くなかったり、後からの参画になると、やらされているようになってしまったりするので、最初から参画頂くのが良い。できるだけ早期段階(企画運営・計画策定の段階)で幅広い市民・府民の方々に入って頂いて一緒に作った計画を一緒に動かしていくという雰囲気作りがあった方がいいので(1)の中にそういったニュアンスを組み込んで欲しい。
- ・4-3(3)『トリガーとなりえる「魅力的なレストラン」などについては』としてしまうと、魅力的なレストランをトリガーにしてやろうという風に見えてしまう。この部分については『「魅力的なレストラン」などトリガーとなりえる施設については』と、ひっくり返して例示とすると良い。
- ・新知事がミュージアム構想を提唱しているが、それとの関係は入れなくてよいのか？
ミュージアム構想は既存のものをより輝かしていくという思想なので、今回馴染むかどうか確認の上、可能であれば盛り込みたい。
- ・現在、黒部ダム建設を題材とした「黒部の太陽」が舞台上で上演されている。ダムの工事が取り上げられるのは、裏に感動の物語があるからであると思う。関わった地元の人や行政の職員で「安威川ダム物語」を作っていくというのが今後整備を進めていく上で重要なのではないだろうか。
- ・このような物語がソフトな整備を裏付けるものとなり、そうであってこそ「北摂のシンボル空間」になるのではないかと。
- ・景観・環境に影響のない範囲で人に来てもらって楽しんでもらうのがよいと思う。
- ・ダムによって今までの形態が変わる。森林はできるだけ元に近い復元をお願いしたい。
- ・安威川ダムに対していい名称を公募しても良い。
- ・ダム湖の周辺を広域的な公園としての利用をして花を植えるなど、賑わいの創造も考えているのはどうか？また、サイクリング・ハイキングなど団塊世代の健康志向に繋がることを考えてほしい。
- ・来訪者には、自然を壊すことに気を付けつつダム湖の良さを感じてほしい。